

八幡小の防災教育の取組

八幡地区は、佐渡市で最も早く自主防災組織を立ち上げるなど、防災に力を入れている地区です。

学校では、「新潟県防災教育プログラム」の自校化を進めるために、地域の実態を踏まえた指導計画を作成し、地域の諸団体と連携して防災教育を推進しています。

1 地域で親子が学ぶ防災教育

八幡地区では、2万個のチューリップ球根をプランターに植えています。この土入れは土のうづくりの練習です。佐渡の伝統野菜である八幡いもの芋煮会は炊き出し訓練です。保護者だけでなく子どももスコップを使いますし、配膳を手伝います。地区防災訓練においても、子ども自身ができることを手伝い、貢献しようとする意欲を高めています。

育成会の防災キャンプでは、防災倉庫の中を見せてもらい、どんな備品によって私たちを守る準備がされているかを教えていただきました。非常食を食べる体験もしましたが、今年自治会長が講師になり、鍋すら用意できない場合を想定し、佐渡にたくさんある孟宗竹でご飯を炊いたり、皿を作ったりしました。防災の知恵や技術が世代間継承される防災教育を実施しています。



【竹筒飯ごう】

2 地震・大津波警報避難訓練

大津波警報が発令されたときの第2次避難所は、学区のホテルの屋上です。椅子の背も

たれに付けている防災頭巾をかぶってグラウンドに避難し、大津波警報の発令を受けてホテルに向かって走ります。屋上での講話では、東日本大震災や中越大震災の教訓を踏まえ、危機回避能力を身に付けた率先避難者になることの大切さを伝えています。



【ホテルの屋上で防災講話】

3 中越メモリアル回廊への修学旅行

修学旅行前には、「新潟県防災教育プログラム」の地震編選択6「生活への影響」を学習します。修学旅行1日目は、「長岡防災アーカイブセンターきおくみらい」で中越大震災による被害の概要を学びます。宿泊する蓬平温泉では、全村避難した山古志地域在住者の体験談を聞きます。



【全村避難経験者の話】

2日目は、木籠メモリアルパークで土砂に埋もれた家屋を見学し、被害の甚大さと復興に向けた努力を実感しました。

6年間の防災教育のまとめとして被災地を訪問し、自分の命を自分で守る行動、被災しても地域のためにできることをやろうとする心構えを学びます。

今後も、災害に強い地域文化を形成する指導計画の改善を一層進めていきます。